

長野県立こども病院 在宅医療連携拠点事業成果報告会



厚生労働省 2013.3. 23



超重症児 医学的管理下に置かなければ呼吸することも 栄養をとることも困難な障害状態にあるこども

- 全国(20歳未満)
 - 1000人対0.15~0.45人、全国でおよそ7,000人。
 - 長野県
 - 重症心身障害児者 1,035人
 - 人工呼吸器を装着した児 110人前後
 - 在宅:約50~60人
 - 入所:約40人
 - 長期入院児:13人
- (長野県長期入院児等支援コーディネーター 河野先生推計2011年)

こども病院で把握している人工呼吸器装着患者

- 人工呼吸器装着患者
 - こども病院管理中 15名
 - こども病院待機中 5名



小児在宅受け入れ確認アンケート



資源マップ

	送付先	回答数	回収率(%)	小児可能
病院	100	59	59	23
診療所	225	97	43.1	24
訪問看護 ステーション	133	74	55.6	16+24
福祉事業所 (児童デイ)	55	31	56.4	20

診療所・訪問看護ステーションの受け入れ条件

◆病院のバックアップ体制

365日24時間の病院医療のバックアップ

緊急入院や相談できる体制などのバックアップ

増悪時のサポート体制がしっかりしていること

◆連携・協力・家族の理解

病院との連携が良好にできていること

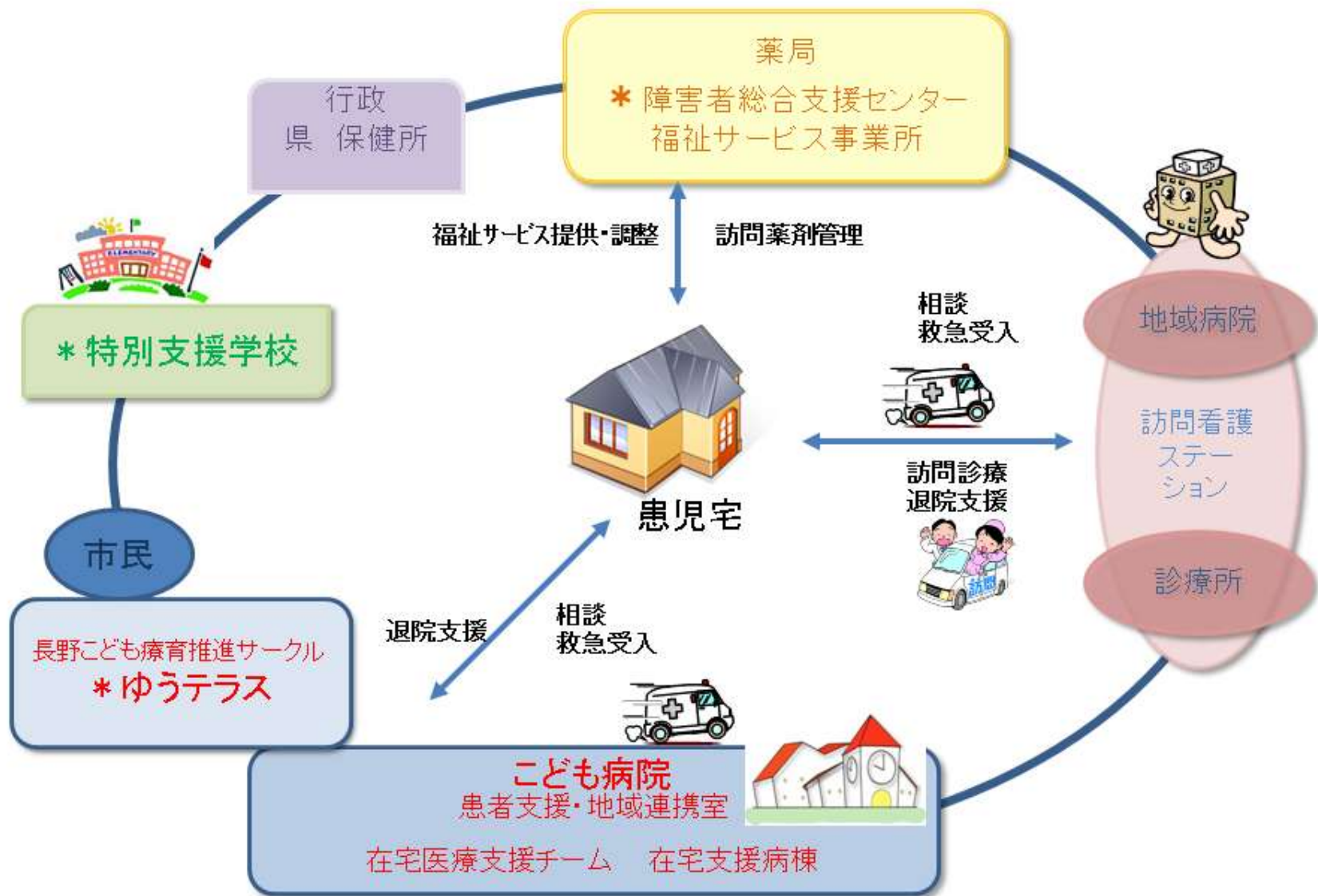
小児科医との連携があれば

他の多職種との協力体制

病院(前医)パラメディカル家族の協力があれば
保護者が疾患について十分に理解している場合

経験が少ないため指導があれば

長野県立こども病院事業計画



1. 多職種連携の強化

◆小児長期入院児等支援連絡会

長野圏域・松本圏域 各3回

上田圏域 1回

在宅支援・療育支援・福祉サービスの現状把握

◆医師会・薬剤師会などとの連携会議

長野県薬剤師会研修会・会議 各1回

こども病院の院外処方

訪問薬剤管理指導業務事例報告

救急消防機関

人工呼吸装着患者の救急連絡カード作成



◆インターネット、オンライン会議

養護学校 療育センター など 11か所
患者宅と訪問リハビリテーション 3か所
養育者支援として 10回／月 利用 1人

◆訪問診療

長期入院児等支援コーディネーター
連携室看護師 理学療法士
病院 4か所 診療所 1か所 施設 1か所

◆個別支援手帳電子ブック版の開発

来年度 開発

◆院内在宅医療支援チーム

1回／月 チーム会
院内ラウンド



2. 24時間対応の在宅医療提供体制の構築

- ◆在宅医療支援病棟11床開設(2009年2月)
- ◆救急外来の体制強化(2012年夏)

3. 任意団体「ゆうテラス」との協働による 研修企画・開催と情報発信基地設置

◆医療的ケア研修会

気管切開・胃ろう・口腔ケア・呼吸理学療法など
9回開催 延べ195名参加

◆シンポジウム開催

2回開催

◆在宅マニュアル

在宅看護マニュアルの改訂
胃ろう・半固形食DVD制作



小児在宅療育推進シンポジウムのアンケート結果より

多職種連携について考えられる課題の抽出 (シンポジウム前に実施)

- 情報共有が難しい
- 顔の見える関係構築が困難
- 専門職の人員不足
- 現場の看護師に福祉の考えを理解してもらえない
- 介護保険の関係はケアマネジャーがいるが小児はコーディネーターがない
- 連絡方法の不十分さ



今後多職種協働で必要と感じる項目

- 医療 看護学習会
- 多職種との交流会
- 情報共有ツールの確立
- 地域毎の社会資源の紹介

意見、感想

- モデル地域を設定して医療・保健・福祉・教育の
連携システムの構築
- 各地域でレスパイト・ショートステイ等が
受けられる



今後の展開

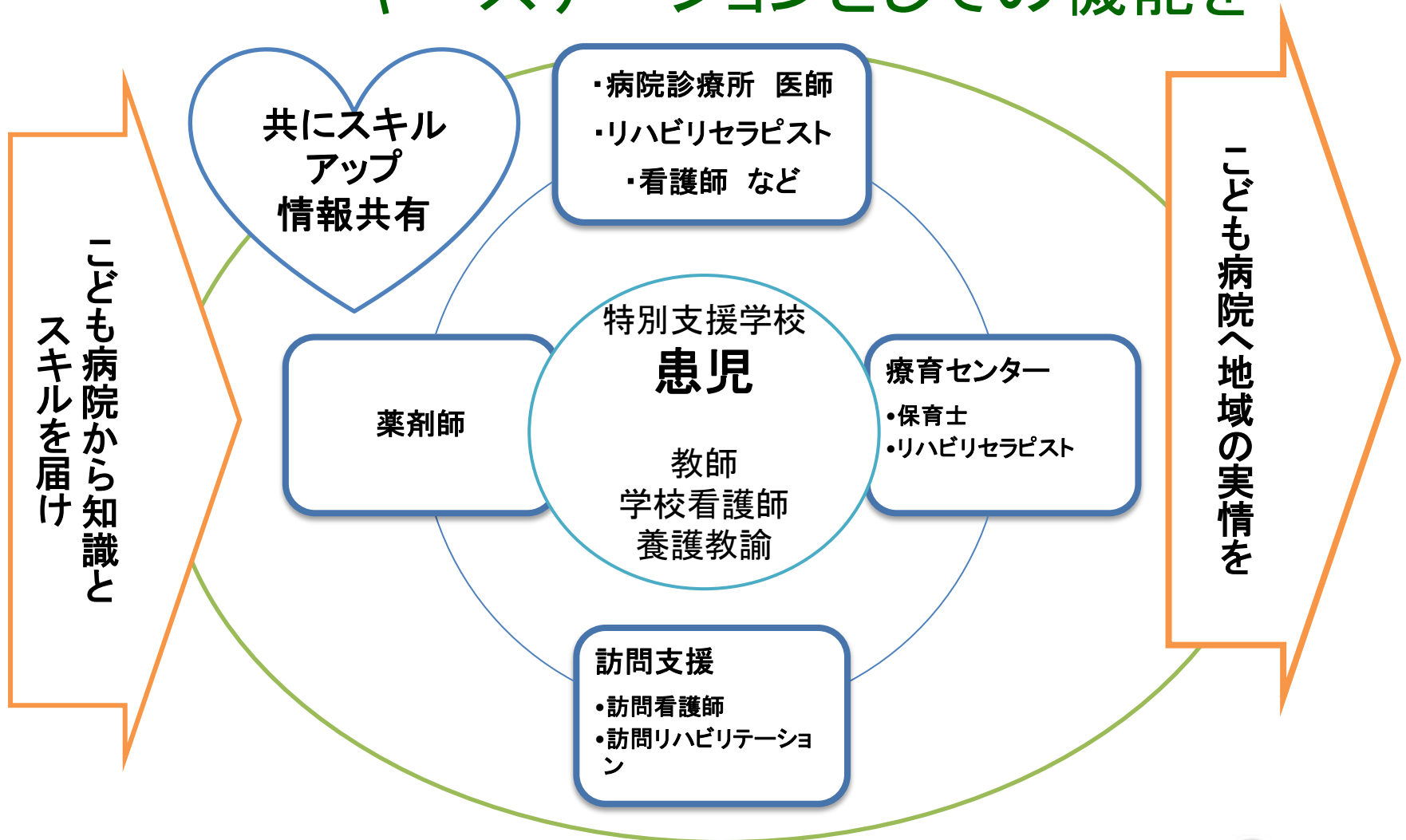
医療・福祉・教育の壁を越えた

顔の見える関係を構築する

- 特別支援学校を核とした連携拡大
- 地域小児在宅医療拠点病院構想
- 緊急時連絡カードの使用開始
 - (救急隊へのスムーズな連絡と搬送をめざして)
- 個別支援手帳電子ブック版の作成
- 情報共有連携から意識連携へ
- 在宅支援病棟継続
 - いわゆるレスパイト入院への対応検討
- 長期入院児等支援コーディネーターによる訪問支援継続
 - **医師**中心の事業には推進力があつた



養護学校に地域療育 キーステーションとしての機能を



医療・福祉・教育の壁を越えて顔の見える関係を構築する

